

# 滋賀県小学校エコ・スクールの実践的特徴に関する一考察

学籍番号 1019736 太田海史

指導教員 市川智史教授

## 1 はじめに

エコ・スクールという語は、学校における環境活動や環境教育を推進するための制度、もしくは当該制度に基づき活動・教育を行っている学校に対して用いられている。つまりこれらの学校は、環境に関する何らかの活動や教育に取り組んでいる学校であることを意味している。それゆえ、エコ・スクールの実践的傾向や特徴を明らかにすることは、今後の環境教育の推進や滋賀県エコ・スクール支援事業の展開に対し有益であると考えられる。先行研究の大半は、制度面の調査や考察を主としたものであり、エコ・スクールの実践的傾向の把握や、他の自治体と比較しているものは見られない。

そこで本研究では、認定校数の多い小学校に焦点を当て、自治体（県・市レベル）が行っているエコ・スクールの実践的傾向の比較・分析を通して、滋賀県エコ・スクールの実践的特徴を明らかにし、その要因を考察することを目的とする。

## 2 国内外のエコ・スクールの取り組み

国際的なエコ・スクールとしては、1993年にヨーロッパ環境教育基金(FEE)によって開始されたEco-Schoolsが挙げられる。Eco-Schoolsはヨーロッパから世界各国へ広がり、現在も継続されている。日本では1997年から「環境を考慮した学校施設（エコスクール）の整備推進に関するパイロット・モデル事業」（文部省と通商産業省の共同事業）が開始された。同事業は関係省庁を拡大するとともに、2017年度から「エコスクール・プラス」と改称し、現在も継続されている。

滋賀県では、2001年度からエコ・スクール支援事業が開始された。2001年度のエコ・スクール検討委員会においてEco-Schoolsを参考に制度が作られ、2003年度末に最初の認定校4校が誕生し、現在も継続されている。このほか、滋賀県エコ・スクールと類似性のある取り組みとして、EMSの考えに基づく「水俣市学校版環境 ISO 認定制度」（熊本県水俣市）、学校版環境 ISO に由来する「みやエコスクール認定制度」（栃木県宇都宮市）、PDCAサイクルを取り入れた「やまぐちエコリーダースクール認証制度」（山口県）、「いちのみやエコスクール運動」（愛知県一宮市）などの事例が見られる。

## 3 実践的特徴の分析

本研究で取り扱うデータは実践報告というテキストデータであるので、「KH Coder 3」を用いた共起ネットワーク図によって分析を行うこととした。各エコ・スクールの実践に関わるデータの収集の結果、滋賀県エコ・スクール、山口県エコ・スクール、宇都宮市エコ・スクール、一宮市エコ・スクールの4つを分析対象とした。これら4つのエコ・スクールの実践的傾向が把握できるような共起ネットワーク図をめざして、図の出力における条件設定を試行錯誤によって検討した。そして、共起ネットワーク図の読み取りから把握できた4つのエコ・スクールの実践的傾向を分類・整理した（表1）。

この結果、滋賀県エコ・スクールは琵琶湖という地域特性やビオトープの活用、栽培を含め、自然環境に関わる活動が実践される傾向が見られた。これは他の3つのエコ・スクールとは異なる

る傾向である。他方、省エネルギー、省資源、リサイクルに関わる活動は実践的傾向として把握されなかった。

表1 4つのエコ・スクール事業の実践的傾向のまとめ

	滋賀県	山口県	宇都宮市	一宮市
自然	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生き物を主とした自然の学習や観察</li> <li>・琵琶湖・水環境に関する地域学習・地域活動</li> <li>・ビオトープ</li> <li>・栽培活動</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自然・生き物の保全</li> <li>・米栽培</li> <li>・堆肥づくり</li> </ul>		
省エネルギー		<ul style="list-style-type: none"> <li>・電気をこまめに消す(節電)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・電気を消す(節電)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・電気を消す(節電)</li> </ul>
省資源		<ul style="list-style-type: none"> <li>・水をこまめに止める(節水)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・水の使用量を減らす(節水)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・節水</li> <li>・紙の裏面利用</li> </ul>
廃棄物	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ごみの調査や学習</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ごみの減量</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ごみの分別</li> </ul>	
リサイクル		<ul style="list-style-type: none"> <li>・牛乳パックの回収</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・資源回収</li> <li>・古紙回収</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・リサイクル活動</li> <li>・牛乳パックの回収</li> </ul>
清掃		<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域清掃</li> </ul>		
その他		<ul style="list-style-type: none"> <li>・エコキャップ活動</li> </ul>		

#### 4 考察

4つのエコ・スクールの実践的傾向の比較・分析に基づき、滋賀県エコ・スクールの実践的特徴として、次の3点を指摘することができる。

- (1) 自然環境に関わる活動が実践される傾向がある。
- (2) ビオトープを活用した活動が実践される傾向がある。
- (3) 省エネルギー、省資源、リサイクルに関わる活動はあまり実践されない傾向がある。

(1)の要因として、滋賀県の地理的特性や「やまのこ」、「うみのこ」、「たんぼのこ」という全県的な環境教育の取り組みの影響が考えられる(実践報告より)。(2)の要因として、エコ・スクールに学校ビオトープ保有校が数多く認定されていることから、ビオトープの実践事例によってエコ・スクールのイメージが形成されてきた影響が考えられる(実践報告より)。(3)の要因として、滋賀県の小学校の環境教育の実践傾向や、教員の意識の影響が考えられる(市川・竹田 2017・2020)。

今後の滋賀県エコ・スクールの推進に向けては、これからの環境学習および学校の教育活動は「児童生徒が持続可能な社会の創り手となる」ことが求められている(文部科学省 2017)(滋賀県 2016)ことから、上記3点の特徴に関する実践をバランスよく行うことが重要であると考えている。具体的な方策として、次の2つを挙げておきたい。

- ①他の自治体のエコ・スクールの活動を、県が各学校教員・児童生徒に発信していく。
- ②「滋賀県基本構想」でも中心として扱っているSDGsの17の目標を元に、児童生徒にエコ・スクールにおいての実践内容を考えさせる。

滋賀県エコ・スクールでは、児童生徒の主体性が大切である。つまり、県が活動項目を定めるのではなく、各学校の実態に合わせたエコ・スクールの実践を、児童生徒自身が考えていく必要がある。